

令和4年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

令和4年度重点課題

- 1 学校運営体制の充実
- 2 人権教育の推進
- 3 学習指導の充実
- 4 進路指導の充実
- 5 生徒指導の充実
- 6 特別活動の活性化
- 7 安全教育と環境教育の推進
- 8 グローバル化に対応した教育の推進
- 9 特色ある学校づくりの推進
- 10 情報教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	<p>評価指標</p> <p>①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率70%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率46.3%で、指標の70%には届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率は92.7%に達している。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>①本校の基本方針である3つの柱を踏まえた教育の実践のために、チームとして組織的に取り組むことができた。</p> <p>②各学期のe-ラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。</p> <p>③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力</p>	<p>このようなコロナウィルス感染症が蔓延する中で、危機管理を重視しつつ、感染対策について、教員間の意思統一を図ることができている。</p> <p>そしてできる範囲で行事を行い、生徒のアンケート調査結果をみても、大変素晴らしい成果を上げていることがわかる。</p> <p>学校評価における評価基準がはっきりしていてわかりやすいのでよい。</p> <p>学校の重点課題の項目が多いように思うので、次年度以降は重点項目の精選を検討してはどうか。</p> <p>また、毎年同じ重点課題にすることも比較ができてよいと思うが、選択と集中という観点から、毎年重点課題を見直すことも検討してほしい。</p>
		<p>②e-ラーニング研修を含め職員朝会や職員会議での啓発を年15回以上実施する。</p>	<p>②全体の研修は①夏のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/20)、②県教委コンプライアンス推進室長による校内研修(8/9)、③教職員不祥事防止とコンプライアンス意識の向上研修(10/13)④不祥事根絶に向けて事例研修(12/5)⑤冬のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(12/1～12/27)、⑥本校のヒヤリハット事例研修(12/21)の6回実施できた。職朝等における啓発、注意喚起は17回(1月末現在)実施し、合計15回以上の目標は達成できた。</p>		
		<p>③「目標管理シート」の研修の項目の達成率80%以上を目指す。</p>	<p>③今年度についても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、対面での研修会や研修会そのものが中止になることが多く、目標数値の達成には至らなかったが、各自が工夫しながらweb研修等を行った。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①校務運営委員会をはじめ各種委員会において、十分な議論を行い、共通理解を図りながら学校運営を行った。特に今年度は、新制服を選定する「制服検討委員会」や創立記念式典を執り行う「創立60周年記念事業校内</p>		<p>①「目標管理シート」の申告・報告・校長面談を有効に活用し、学校の課題と次年度の目標を共有し、チーム市高として組織的な学校運営を行う。</p> <p>学校目標の達成に向け、各学年、各分掌、各教科等での報告・連絡・相談を密にし、連携を図る。「学校運営協議会」を有効活用し、地域や関係機関との連携を図り、社会に開かれたカリキュラムの改善や地域とともにある学校づくりに努める。</p> <p>②風通しの良い職場環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やe-ラーニングによる研修を引き続き実施する。</p>

		<p>実行委員会」において教職員間の連携が強まった。</p> <p>② e-ラーニング研修は年間3回、月1回以上職員朝会や職員会議等で注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>③ 年2回の授業参観週間の実施や校外の授業研究会、先進校や予備校の授業力研修会に積極的に参加する。</p> <p>③ 校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。</p>	<p>の向上に取り組むことができた。</p> <p>②夏のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/20)をはじめ、外部講師による研修も含めて年間3回のe-ラーニング研修を実施した。時機に応じた注意喚起を行い、職員会議等を通じて全体で事例を考え、意識向上を図る研修も3回実施できた。細かい注意喚起はその都度行い、コンプライアンス意識の向上につなげることができた。</p> <p>③年2回の授業参観週間において、全教員が他の教員の授業を参観し、授業力の向上を図ることができた。また、ジャンプアップ研修やミドルリーダー研修等での研究授業を実施し、授業力向上に努めた。</p> <p>③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を実施し、年間2回の実施が達成できた。常勤講師については、時期を捉えて面談等を行った。</p>		<p>③指導と評価の一体化を念頭に、引き続き講習会や授業研究会に積極的に参加し、授業力の向上と改善に努める。</p>													
<p>2 人権教育の推進</p>	<p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実を図る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="521 685 1152 734">評価指標</th> <th data-bbox="1152 685 1769 734">評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="521 734 1152 937"> <p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p> </td> <td data-bbox="1152 734 1769 937"> <p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="521 937 1152 1188"> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高入権新聞」は年間5回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」で来場者100人以上を目指す。</p> </td> <td data-bbox="1152 937 1769 1188"> <p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高入権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」のため模造紙16枚以上、パワーポイントを使用した動画を3作品作成した。市高祭が非公開であるなか77人の来場があった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="521 1188 1152 1284"> <p>③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p> </td> <td data-bbox="1152 1188 1769 1284"> <p>③PTA研修は2回、校内研修は4回を開催することができた。</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="521 1284 1152 1333">活動計画</th> <th data-bbox="1152 1284 1769 1333">活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td data-bbox="521 1333 1152 1661"> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p> </td> <td data-bbox="1152 1333 1769 1661"> <p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に同和問題やハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="521 1661 1152 1767"> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p> </td> <td data-bbox="1152 1661 1769 1767"> <p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、</p> </td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価指標の達成度	<p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p>	<p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p>	<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高入権新聞」は年間5回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」で来場者100人以上を目指す。</p>	<p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高入権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」のため模造紙16枚以上、パワーポイントを使用した動画を3作品作成した。市高祭が非公開であるなか77人の来場があった。</p>	<p>③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p>	<p>③PTA研修は2回、校内研修は4回を開催することができた。</p>	活動計画	活動計画の実施状況	<p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p>	<p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に同和問題やハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p>	<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p>	<p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、</p>	<p>総合評価 (評定) A (所見) ①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づき人権ホームルーム活動の実施、それに伴う先行授業については、目標通りの成果をあげることができた。3年生の問題意識調査では8割以上の生徒が「市高での人権教育は充実していた」と回答した。これまでも目標としてきた、生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近」なものとして捉えられる授業内容を、引き続き探究したい。</p> <p>②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができた。上の①でも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動の実現に向けて、人権委員の活躍に期待し</p>	<p>①昨年度より人権ホームルーム活動において取り扱うテーマを一部変更して実施している。高校における人権学習は、生徒たちにとっては、さまざまな問題について知り、解決に向けて考える大切な時間である。人権教育課内でも今年度の取り組みについて振り返り、よりよい内容となるよう取り組んでいきたい。</p> <p>②本校の自主活動は、人権委員会の活動に支えられている。生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業の実現、校外活動への積極的な参加も推進したい。その際、できるだけ負担増とならないような配慮が必要である。また、人権問題研究部の活動の活性化にも期待したい。</p> <p>③本年度の研修は、動画を活用した自主研修、講師を招聘した講演を2回、現在本校で問題となっている事象をとりあげて考えてもらう研修を1回実施した。参加者の感想や</p>
評価指標	評価指標の達成度																	
<p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p>	<p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p>																	
<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高入権新聞」は年間5回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」で来場者100人以上を目指す。</p>	<p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高入権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」のため模造紙16枚以上、パワーポイントを使用した動画を3作品作成した。市高祭が非公開であるなか77人の来場があった。</p>																	
<p>③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p>	<p>③PTA研修は2回、校内研修は4回を開催することができた。</p>																	
活動計画	活動計画の実施状況																	
<p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p>	<p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に同和問題やハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p>																	
<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p>	<p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、</p>																	

		<p>②「市高生権新聞」を発行する。</p> <p>②市高祭で「人権展」を開催する。</p> <p>②「人権啓発作品展」を実施する。</p> <p>③校内研修を実施する。</p> <p>③PTA研修を実施する。</p>	<p>活動当日または翌日に責任を持って提出できた。</p> <p>②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。</p> <p>②人権展のためのレポート作成を中心に積極的に行った。その内容をもとに模造紙や動画等を作成し、市高祭「人権展」を開催することができた。またその作品は後日エントランスに展示し、本校生徒や来客者に紹介した。</p> <p>②2月に人権啓発作品展を実施した。</p> <p>③1学期に2回、2学期に2回、校内研修等を実施した。内容は、1学期に「人権教育実施の目的や意義の確認」、夏季休業中に「差別の連鎖を断つーハンセン病問題から学び、伝える」、9月に「保護者・教職員が知っておきたい同和問題」、12月に「教職員の人権意識を高めるために」とした。</p> <p>③上記9月の校内研修はPTAと合同で実施することができた。また3学期の人権意見発表会については、新型コロナウイルス感染症の感染状況からその開催については検討していきたい。</p>	<p>たい。</p> <p>③人権教育職員研修は、計画通り3回以上実施できた。またPTA研修も実施することができた。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度も工夫していく必要がある。</p>	<p>意見については、職員間で共有できるようにClass iを活用した。次年度も、本校教職員の要望を踏まえつつ、社会状況に応じた研修を実施したいと考えている。</p>	
3 学習指導の 充実	<p>①授業日数・授業時数の確保に努める。</p> <p>②わかりやすく、魅力ある授業に努める。</p> <p>③学習習慣の定着を図る。</p> <p>④思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>⑤英語4技能を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①授業時数を800時間以上確保する。</p> <p>②(1年)「学習のかたち週間」を1学期と2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期に実施する。</p> <p>②授業満足度80%以上を目指す。</p> <p>②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。</p> <p>③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし50%以上を目標とする。</p> <p>③定期考査後に「振り返りの時間(リフレクションタイム)」を設定し、取り組みにたいする成果と課題について自己評価させる。</p> <p>③学年団を中心とする学力向上研究会を各学期に1回以上開催し、学力や学習状況についての分析、共有、協議を行う。</p> <p>④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。</p> <p>④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。</p> <p>⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。</p> <p>⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①授業時数確保のため各学期定期考査後の日程を見直し、昨年より多い授業時数を確保している。 3学期末までの授業時数 今年度1087</p> <p>②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施</p> <p>②授業満足度は88.7%で昨年より0.7%下降した。</p> <p>②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。</p> <p>③2学期末の調査では、1年生21.2%。2年生52.9%であった。(昨年度1年生25.5%,2年生34.9%)</p> <p>③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力させた。</p> <p>③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議した。</p> <p>④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。</p> <p>④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。</p> <p>⑤1,2年生で5回すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4技能の育成を図った。</p> <p>⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。</p> <p>②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、目標値に近い満足度を上げることができた。</p> <p>③定期考査前の学習時間は増加傾向にあるが、継続した取り組みに課題がある。</p> <p>④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を工夫する必要がある。</p> <p>⑤事後の指導の拡充や適切な評価が必要で</p>	<p>コロナの影響があったにも関わらず、しっかりと授業時数の確保ができています。行事の精選なども考え、引き続き、授業時間確保に取り組み、授業満足度のアンケート結果は素晴らしいが、「予習をして授業に臨んでいる」という項目に対して、かなり低い数値が見られたのが残念であった。</p> <p>授業に対して予習・復習の習慣を身に付け、家庭学習の充実をもっと図る必要があると感じた。</p> <p>図書館の活用方法について考え、より一層進めてほしい。ビブリオバトルについても継続して実施できており、嬉しく思う。これからも継続してほしい。</p> <p>生徒の活字離れが取り沙汰されているが、推薦図書を紹介などを行い、また生徒が希望する図書を購入するなど、図書の購入方法についても考えてもらいたい。</p> <p>新聞については未購読の家庭も増える中で難しい面</p>	<p>①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。</p> <p>②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実も図りたい。授業参観や授業評価については、実施率が100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。タブレットPCの活用方法やアクティブラーニングやICT教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。</p> <p>③早期からの学習習慣の定着のために、アダプティブラーニングを取り入れるなどの工夫を行いたい。</p> <p>④入試制度改革、新学習指導要領を見据え、評価のあり方を見直していきたい。</p>

<p>⑥多面的評価を図る。</p> <p>⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。</p> <p>⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る。</p>	<p>⑥すべての学年において、キャリアパスポートを作成させる。</p> <p>⑥記録用のワークシートを配布、配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題についての振り返りをさせる。</p> <p>⑦12月末までの生徒利用のべ人数5,000人、一般貸出1,500冊以上にする。</p> <p>⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のある生徒の割合50%以上を目指す。</p> <p>⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。</p>	<p>⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをキャリアパスポートに記録させた。</p> <p>⑥12種類のワークシートを準備し、記述と入力両方で作成させた。</p> <p>⑦図書館便り10回・新着図書案内7回発行(3/31現在)開館日数214日で、利用延べ人数5,296人、一般貸出(生徒個人+団体)冊数1,110冊。(3/31現在)</p> <p>⑧今まで新聞を読む習慣がなかった生徒(3年生)が74.2%いたが、52.8%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然47.2%の生徒に読む習慣がない。昨年39%</p> <p>⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。</p>	<p>ある。</p> <p>⑥定期考査後の学習への取組に対する振り返りは定着させることができた。キャリアパスポートの内容についての指導に課題がある。</p> <p>⑦今年度の1/15現在の入館者数は昨年度に引き続き、目標に大きく届かなかった。利用のべ人数が新聞感想文での利用もあったものの、それ以外での利用が伸びなかった。貸出冊数も減少しており、昨年度を下回った。一方、今年度も図書委員主催の図書館展や1,2年生対象のビブリオバトルを実施しており、読書活動啓発に一定の成果をあげている。しかし、タブレットの導入によりインターネットの利用が進み、図書館に足を運ぶ生徒が減少している。</p> <p>⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が、全体の74.2%を占めていたが、2学期末には、52.8%の生徒が「読む機会を設けるようになった」と回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、</p>	<p>があるが、新聞にだけにとらわれず、インターネットやテレビなどのニュースでも良いので、政治や経済、時事問題について考え、関心を持つことが大切である。公民だけでなく、様々な教科で新聞記事の利用や提示を図り、その重要性を伝え、これからも生徒の興味・関心を高めていけるように努力していったほしい。</p>	<p>⑤進路指導目標や生徒の実態に即した環境整備に向け、改善を図る必要がある。また、リフレクションシートなどを活用し、4技能の定着・向上に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>⑥キャリアパスポートを活用して、学習の振り返りを拡充し、学力の向上につなげたい。また、キャリアパスポートをとおして、多面的・総合的評価の充実を図りたい。</p> <p>⑦読書習慣の定着と図書館利用の促進、特に「読書の面白さ発信」に引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>⑧新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞を使った取り組みの意義合いが高まっていると言える。成人年齢も引き下げられたことから、更に主権者として必要な社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。</p>
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>				
<p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。</p>	<p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p>				
<p>①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。</p>	<p>①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始めることができた。</p>				
<p>②学期の最初の1週間で「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p>	<p>②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p>				
<p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p>	<p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。自習室を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30に年間を通じて開放した。3月31日まで274日開放。</p>				
<p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p>	<p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p>				
<p>⑤ICT環境の整備を計画的に進める。</p> <p>⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p>	<p>⑤重点目標を踏まえた環境整備ができなかった。</p> <p>⑤民間の英語検定であるGTECを校内で1回、また、英語検定の案内、受付を随時実施した。</p>				
<p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p>	<p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体性、協働性などについて評価する機会を増やした。</p>				
<p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に努める。</p>	<p>⑦教科に予算配分し、購入書籍の推薦を依頼し購入したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。</p>				

		<p>⑧地歴科・公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、地歴科・公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>⑧1年生地理総合・3年生政治経済（文系）において、新聞記事を利用した発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p> <p>⑧2学年：講演，3学年：体験型授業を実施し、社会参画の意義について考えた。なお，3学年で予定されていた年金セミナーについても，社会保障の役割について意識を高める貴重な機会となった。</p>	<p>依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており，社会への関心が高まっていると考えられる。</p>																															
4	<p>進路指導の充実</p> <p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。</p> <p>②IRP活動の充実を図る</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える，進路検討会を定期的実施する。</td> <td>①3学年は4回実施した。1，2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。</td> </tr> <tr> <td>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</td> <td>①二者面談 1年2回，2年2回，3年4回実施した。</td> </tr> <tr> <td>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</td> <td>①三者面談 1年2回，2年2回，3年3回実施した。</td> </tr> <tr> <td>①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</td> <td>①合格者31名（3月31日現在）</td> </tr> <tr> <td>②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度70%以上を目指す。</td> <td>②3年生のIRPでは各グループが2回以上の面接練習や講義を行った。満足度は78.9%。昨年79.3%。一昨年74.2%。</td> </tr> <tr> <td>②IRP活動において，地域に関わる講演を各グループで2回以上もち，レポートを作成する。</td> <td>②2年生のIRPでは，地域での調査（講師招聘及び原意調査）を年間30回以上実施した。平均すると各グループは3回以上となる。中間発表は，数年ぶりにあしかびホールでの発表となった。市長への提案も，非常に良いものとなった。レポートは予定通り実施。</td> </tr> <tr> <td>②理数科IRPの週時定内実施が3年目にあたり，校内での考察にとどまることなく，大学と連携しながら実験や調査といった探究活動を進めていく。中間発表会としてポスターセッションを1度行い，3月末に徳島県SSH課題研究合同発表に向けて取り組む。</td> <td>②理数科の課題研究は，大学と積極的に連携して進めることができなかったものの，中間発表に向け週時程内で実験や観測を実施することができた。3月末には課題研究合同発表会に参加する。また，本年度より京都大学のポスターセッションに毎年参加できる。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>①生徒の志望の実現に向け，学力を育成するための支援について学年団で話し合い，指導力の向上を図る。</td> <td>①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。</td> </tr> <tr> <td>①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。</td> <td>①生徒の状況を把握し，上級学年を意識した声かけを行うため，面談を実施している</td> </tr> <tr> <td>①入試制度に関する情報やデータの収集に努め，進路説明会やホームページなどをとおして，生徒や保護者に適切な情報を提供する。</td> <td>①正確なデータや適切な資料を用い，生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。</td> </tr> <tr> <td>①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。</td> <td>①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し，情報提供や進路意識の高揚に努めた。</td> </tr> <tr> <td>①高大連携を推進するとともに，連携事業への参加をうながすことで，生徒の知見を広げる機会を増やす。</td> <td>①高大接続改革，新入試制度についての研修に参加し，概要などについてのレジュメを作成し，教職員間で情報を共有するとともに，生徒や保護者に文書を配付，配信した。長期休業日等において，校外やオンラインでの体験学習への参加を促した。大学や研究所と連携し，生徒の参加できる機会を提供している。</td> </tr> <tr> <td>②京都大学や関西の他大学，徳島大学との高大連携事業</td> <td>②東京大学で，初めて理数科セミナーを実施。本校卒業</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価指標の達成度	①すべての生徒の進路について複数の教員で考える，進路検討会を定期的実施する。	①3学年は4回実施した。1，2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。	①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。	①二者面談 1年2回，2年2回，3年4回実施した。	①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。	①三者面談 1年2回，2年2回，3年3回実施した。	①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。	①合格者31名（3月31日現在）	②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度70%以上を目指す。	②3年生のIRPでは各グループが2回以上の面接練習や講義を行った。満足度は78.9%。昨年79.3%。一昨年74.2%。	②IRP活動において，地域に関わる講演を各グループで2回以上もち，レポートを作成する。	②2年生のIRPでは，地域での調査（講師招聘及び原意調査）を年間30回以上実施した。平均すると各グループは3回以上となる。中間発表は，数年ぶりにあしかびホールでの発表となった。市長への提案も，非常に良いものとなった。レポートは予定通り実施。	②理数科IRPの週時定内実施が3年目にあたり，校内での考察にとどまることなく，大学と連携しながら実験や調査といった探究活動を進めていく。中間発表会としてポスターセッションを1度行い，3月末に徳島県SSH課題研究合同発表に向けて取り組む。	②理数科の課題研究は，大学と積極的に連携して進めることができなかったものの，中間発表に向け週時程内で実験や観測を実施することができた。3月末には課題研究合同発表会に参加する。また，本年度より京都大学のポスターセッションに毎年参加できる。	活動計画	活動計画の実施状況	①生徒の志望の実現に向け，学力を育成するための支援について学年団で話し合い，指導力の向上を図る。	①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。	①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。	①生徒の状況を把握し，上級学年を意識した声かけを行うため，面談を実施している	①入試制度に関する情報やデータの収集に努め，進路説明会やホームページなどをとおして，生徒や保護者に適切な情報を提供する。	①正確なデータや適切な資料を用い，生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。	①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。	①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し，情報提供や進路意識の高揚に努めた。	①高大連携を推進するとともに，連携事業への参加をうながすことで，生徒の知見を広げる機会を増やす。	①高大接続改革，新入試制度についての研修に参加し，概要などについてのレジュメを作成し，教職員間で情報を共有するとともに，生徒や保護者に文書を配付，配信した。長期休業日等において，校外やオンラインでの体験学習への参加を促した。大学や研究所と連携し，生徒の参加できる機会を提供している。	②京都大学や関西の他大学，徳島大学との高大連携事業	②東京大学で，初めて理数科セミナーを実施。本校卒業	<p>総合評価 (評定) A (所見)</p> <p>①昨年度までの課題であった，1，2年生の学習習慣の定着，進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。また，学力を多面的・総合的に評価する大学なども増加しており，これに対応する支援体制の拡充が必要となる。</p> <p>②IRPにおいては地元徳島を対象とし，探究活動を実施するとともに調査・研究手法も学ぶことができた。また，京大，徳大を中心とした高大連携事業は今年度はコロナ禍ではあったが，昨年比べて実施できた事業が多く，オンラインを始めとするICTの普及を感じる。</p>	<p>きめ細やかな指導をされている。大学進学率も高く素晴らしい。伝統ある市高の進学については，苦勞もたくさんあると思うが，今後も引き続き継続してってもらいたい。</p> <p>IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度が80%近いのが，素晴らしい。</p> <p>また，コロナの影響があったにも関わらず，充実した様々な活動ができています。今後も素晴らしい人材の育成に向けて取り組んで欲しい。</p>	<p>①学力向上研究会を立ち上げ，学力の分析，学習習慣の定着，進路意識の高揚のため，組織的に取り組む体制ができた。今後，内容を充実させ，目的が達成できるように努めていきたい。</p> <p>また，高大接続改革，新入試制度についての情報収集に努め，教職員間で情報を共有するとともに，生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。</p> <p>②高大連携は引き続き徳大，京大を中心とした事業を展開したい。また，京大との連携では，四国圏広大連携ネットワークに新たに参加することで，より充実した事業が期待できる。一方，徳島大学との連携では医学部JSLは，終了となったが，歯学部JSLは継続，新たに生物資源学部JSLがスタートした。今後も学部開拓を進めたい。</p> <p>マイナビのオンラインスタディプランが活用2年目に突入，2年生で本格的な探究学習を開始できるように体制を整え，そのノウハウを1～2年で吸収し，市高独自のプランに活用したい。また，2年生では産学連携をスタートさせることで，IRPにさらなる深まりを付与したい。</p>
評価指標	評価指標の達成度																																		
①すべての生徒の進路について複数の教員で考える，進路検討会を定期的実施する。	①3学年は4回実施した。1，2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。																																		
①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。	①二者面談 1年2回，2年2回，3年4回実施した。																																		
①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。	①三者面談 1年2回，2年2回，3年3回実施した。																																		
①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。	①合格者31名（3月31日現在）																																		
②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度70%以上を目指す。	②3年生のIRPでは各グループが2回以上の面接練習や講義を行った。満足度は78.9%。昨年79.3%。一昨年74.2%。																																		
②IRP活動において，地域に関わる講演を各グループで2回以上もち，レポートを作成する。	②2年生のIRPでは，地域での調査（講師招聘及び原意調査）を年間30回以上実施した。平均すると各グループは3回以上となる。中間発表は，数年ぶりにあしかびホールでの発表となった。市長への提案も，非常に良いものとなった。レポートは予定通り実施。																																		
②理数科IRPの週時定内実施が3年目にあたり，校内での考察にとどまることなく，大学と連携しながら実験や調査といった探究活動を進めていく。中間発表会としてポスターセッションを1度行い，3月末に徳島県SSH課題研究合同発表に向けて取り組む。	②理数科の課題研究は，大学と積極的に連携して進めることができなかったものの，中間発表に向け週時程内で実験や観測を実施することができた。3月末には課題研究合同発表会に参加する。また，本年度より京都大学のポスターセッションに毎年参加できる。																																		
活動計画	活動計画の実施状況																																		
①生徒の志望の実現に向け，学力を育成するための支援について学年団で話し合い，指導力の向上を図る。	①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。																																		
①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。	①生徒の状況を把握し，上級学年を意識した声かけを行うため，面談を実施している																																		
①入試制度に関する情報やデータの収集に努め，進路説明会やホームページなどをとおして，生徒や保護者に適切な情報を提供する。	①正確なデータや適切な資料を用い，生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。																																		
①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。	①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し，情報提供や進路意識の高揚に努めた。																																		
①高大連携を推進するとともに，連携事業への参加をうながすことで，生徒の知見を広げる機会を増やす。	①高大接続改革，新入試制度についての研修に参加し，概要などについてのレジュメを作成し，教職員間で情報を共有するとともに，生徒や保護者に文書を配付，配信した。長期休業日等において，校外やオンラインでの体験学習への参加を促した。大学や研究所と連携し，生徒の参加できる機会を提供している。																																		
②京都大学や関西の他大学，徳島大学との高大連携事業	②東京大学で，初めて理数科セミナーを実施。本校卒業																																		

		を実施し、広い教養をもとに最先端の学知にふれる。	生の在籍も確認され、今後も理数科セミナーを実施できる環境であった。今後、東大との継続的な連携について必要性を感じる 京大との高大連携事業は、本年度で改訂。今後もますますの連携が見込まれる。甲南大学と5年目になる「関西湾岸SDGsチャレンジ」では、4名の生徒が参加した。徳島大学は、教養教育院と「多言語ラボ」、「異文化キャラバン」、「留学生交流会」を実施。歯学部と生物資源産業学部でJSLを実施。医学部は終了となった。また、2年生IRPを中心に、徳大・鳴教大・文理大・四国大からも講師を招聘した。			
5 生徒指導の 充実	<p>①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。</p> <p>②遅刻防止の指導の充実を図る。</p> <p>③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。</p>	<p>評価指標</p> <p>①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。</p> <p>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</p> <p>③教育相談担当者と希望者による校内研修会を1回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。</p> <p>活動計画</p> <p>①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。</p> <p>①学年集会、全校集会で指導する。</p> <p>①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う</p> <p>②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。</p> <p>③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーにアドバイザーを依頼し、研修会を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①6月以降適宜行う。 ①学年集会を1年2回、2年3回、3年3回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。</p> <p>②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.1人、2年2.1人、3年2.3人であった。(昨年度2.2人)</p> <p>③年間1回(12月)実施。精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。</p> <p>②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。</p> <p>③11月に本校カウンセラーの小倉先生から職員に、12月に公認心理師海面先生を迎えて、思春期に多くみられる症例と対処法の講座を1学年生徒・教職員に対してそれぞれ実施した。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>(所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</p>	<p>遅刻指導の対応と登下校時の事故防止等、今後もしっかり進めてほしい。 市高生の自転車の通行マナーについては良いように思える。 今後は交通マナーやモラルについての教育にも取り組んで欲しい。そして、引き続き事故対策を考え、生徒の交通意識が高まるような取り組みに期待したい。 学習活動の成果につながるために、生徒指導の充実を期待する。</p>	<p>①あいさつ運動は毎週月曜日に実施しているが来年度も実施したい。 ②来年度も根気よく指導継続したい。 ③生徒の状況に応じたケース会議の充実や関係機関との連携をさらに強化し、早期の対応ができるよう心がける必要がある。</p>
6 特別活動の 活性化	<p>①部活動の活性化に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①部活動加入率90%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①部活動加入率 1年 98% 2年 88% 3年 83% 全体 90% ①四国大会以上の出場部数 <今年度の目標から削除> 四国大会 15部 全国大会 12部</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見)</p>	<p>コロナの影響を受け、大変である中、部活動の入部率がこれだけ高いことは素晴らしい。 今後も伝統ある市高の部</p>	<p>①継続して加入率の増加に努めるとともに、競技実績のアップにも努めていきたい。</p>

	<p>②ボランティア活動や生徒会活動を活性化する。</p>	<p>②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する。</p> <p>活動計画</p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行式・賞状伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的にを行い、豊かな人間性や社会性を育てる。 ②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。</p>	<p>②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①感染状況に応じて、実施形態を対面かリモートかを使い分けて、全校生徒に報告した。</p> <p>②校内美化活動を学期に1回実施した。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。</p>	<p>①部活動加入率が昨年より下がっているが、兼部ではなく専部で活動する生徒が増え、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような指導の取り組みが求められる。</p> <p>②生徒会を中心に、校内での活動は戻ってきたが、周辺地域等、校外での活動も徐々に取り組んでいきたい。</p>	<p>活動の活性化また実績に期待している。 過去強かった、またはこれから強くなる部活動に対する支援をお願いしたい。 学習活動の成果につなげるために、特別活動の充実を期待する。</p>	<p>②校内ボランティアは年3回の実施を継続して実施したい。 各種委員会による活動の活性化に努力したい。 生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。 全体を通じて感染症予防策をとりながら校内外活動が実施できるよう工夫していきたい。</p>
<p>7 安全教育と環境教育の推進</p>	<p>①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。 ②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。 ③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別、減量化に努める。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>②防災について関心の高い生徒の割合を70%以上にする。 ②生徒の防災士資格取得者を育成する。 ②防災HRを計画、実施する。</p> <p>③学校安全の日に合わせて安全点検を実施する。 ③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間5回以上発行する。 (*③は保健室経営計画を兼ねる)</p> <p>活動計画</p> <p>①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①節電・節水に努めた。 ①ゴミの分別、減量化に努めた。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努めた。 ①校内美化活動 5回実施 ①学校周辺地域の清掃活動 2回実施</p> <p>②防災に関心の高い生徒の割合67.7% 昨年度 68.5% 一昨年度 76.6% (1学期末生徒授業自己評価結果より) ②防災士は4名が受検し、全員合格した。 ②防災HRを計画し、1回実施することができた。</p> <p>③保健委員会による校内環境衛生管理を年間24回実施することができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間12回発刊できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月の使用電気量及び電気代を調べ、過去2年間と比較したものを掲示する事により、より一層節電意識を高めていった。また、事務室との連携により集中管理を行い成果を上げることができた。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をチェックし、そのたびに注意勧告を行う事により、分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル、段ボールの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①環境委員による環境美化に関するポスターを作成し、環境美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃奉仕活動を行</p>	<p>総合評価 (評定) B (所見) ①「とくしまGXスクール」認定校として、脱炭素社会実現に向けた持続可能な社会の創り手の育成にむけて活動を行った。 環境とSDGsとの関わりについて学習を深め、その成果が家庭や地域に広がっていくよう取り組みを行った。「分別」「清掃」「リサイクル」が当たり前に行えるよう呼びかけた。加えて、節電・節水など身近に取り組める環境アクションにも進んで取り組めるよう機会あるごとに啓発を行った。</p> <p>②今年度もコロナ感染症の影響で消防署から講師を招くことはできなかったが、校内での取り組みとして避難訓練が実施できた。また、防災H</p>	<p>コロナ対策等、大変なこともたくさんあったと思うが、充実した活動や取り組みについて十分評価できる。 防災士の合格も素晴らしい。 また、各教室に空気清浄機を設置するとともに、換気の徹底を行うなど、感染予防の点でもしっかりした取り組みがなされている。 防災についても様々な職員研修を実施し、充実した研修を行うことができています。</p>	<p>①引き続き感染症予防対策をしながら、各種取り組みを実施していきたい。 取り組み状況の記録や掲示を有効に行い、節電・節水など身近な環境アクションの徹底や、ごみの分別・減量化をさらにすすめていきたい。 ②防災HRを実施し、災害対応を自らの問題として考える機会をつくりたい。 また、機会あるごとに防災・減災について啓発を行い、意識を高めたい。 避難訓練においては、感染症対策なども視野に入れ、計画の見直しや実行に取り組みたい。 津波避難に向けた2次避難や地域との共同訓練も考えていきたい。 防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。 ③新型コロナウイルス感染症感染予防対策により保健委員会の活動は、負担が多く、より重要なものになってきた。気の緩む</p>

	<p>奉仕活動を実施する。</p> <p>①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。</p> <p>②年2回防災訓練を実施する。</p> <p>②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。</p> <p>②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。</p> <p>②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。</p> <p>③毎月1回AEDの点検・管理等を行う。</p> <p>③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。</p> <p>③保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げ、保健委員会コーナーから発信する。</p>	<p>った。</p> <p>①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかけた。</p> <p>②2学期に防災訓練を1回実施した。新型コロナウイルス感染症感染予防を考慮し、実施内容の変更もあったが、実施することができた。</p> <p>②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。</p> <p>②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。</p> <p>②防災HRを計画し実施した。</p> <p>③保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。学校安全の日にはAEDの点検を実施し記録した。</p> <p>③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施し、充実した研修を行うことができた。</p> <p>③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーから発信し好評を得た。</p>	<p>Rを実施し、防災への意識の高揚に努めた。自分はもちろん周囲の人の生命を守るための準備や心づもりをする機会となった。学校防災士に4名が合格し、徳島県防災サポーターへの登録も行った。</p> <p>③保健委員会の活動や保健だよりや掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋げた。職員研修については、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。</p>	<p>ことのないよう継続して続けていきたい。保健だよりの保健委員によるコーナーも次年度においても継続していきたい。職員研修については、次年度においても実践的な研修となるよう事例等を多く取り入れ、資質・能力の向上に繋げていきたい。</p>
--	--	--	--	--

8 グローバル化に対応した教育の推進	①グローバル化に対応した教育を推進する。	<p>評価指標</p> <p>①台湾やサギノー・ドイツとの交流、徳島大学異文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ（中国語・ドイツ語）、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①ドイツとの交流やサギノー短期留学は実施できなかったが、異文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会は実施し、その満足度は95%を超えた。本年度は、異文化キャラバンに15名、多言語ラボ中国語は56名、ドイツ語は45名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。また12月には、台湾の姉妹校とオンラインで交流した。留学生交流会も3年ぶりの対面での実施となった。また、留学生の高校体験も初めて行った。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①世界各国の文化や言語を学び、また地元徳島の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらにIRPでは地元企業や諸団体の協力のもと、校内だけでなく、共に地域に出向き、社会の中で交流する機会も設けた。</p>	<p>コロナの影響で、留学生等の受け入れや、交流がなかなか難しい中、オンライン等での新しい取り組みで充実した活動ができています。この機会にオンラインでできる取り組み、オンラインでしかできない取り組みについても考えてもらいたい。</p> <p>異文化交流や国際交流については、生徒への効果が大変大きいので、今後も続けてほしい。</p>	<p>①ずいぶん長かったコロナ禍での事業規模縮小を引きずらずし、実施方法なども含め、多様な生徒に参加を促すための再工夫が必要である。台湾姉妹校との交流は、継続化に向けて、オンライン交流の定着もさることながら、徳島県観光協会にも協力頂き、相互の短期留学を実施したい。そういった面では、サギノーの短期留学が、再始動しそうであることは大変喜ばしい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島探究講座を実施し、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島大学教養教育院と協働し、異文化キャラバン隊への参加や、留学生訪問を通じて世界各地の社会や文化にふれる。</p> <p>①台湾・国立潮州高級中学、ドイツヘルバルトギムナジウム校との交流を通じて、アジア、ヨーロッパの高校生から幅広い知識を吸収する。</p> <p>①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。（※今年度は全てオンラインで実施予定）</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。</p> <p>①サギノー短期留学、台湾国立潮州高級中学への研修では、異文化を直接体験する良い機会となっていたが、今年度はやむを得ず中止となったが、オンラインで交流を行った。</p>			

<p>9</p> <p>特色ある学校作りの推進</p>	<p>①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。</p> <p>②保護者と積極的に情報交換し、日頃の教育活動に生かす。</p> <p>③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。</p> <p>1 市高祭の公開 2 体験入学等の実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上</td> </tr> <tr> <td>②PTA総会、また各種研修会への実施に向けてコロナ対策を配慮した上で、参加率を増やす。</td> </tr> <tr> <td>③市高祭の入場者数1200人以上を目指す。 ※今年度は、非公開及び人数制限の場合はこの限りではない。</td> </tr> <tr> <td>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数42以上を目指す。</td> </tr> <tr> <td>③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。</td> </tr> <tr> <td>④オープンスクールの参加者数300人以上を目指す。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> </tr> <tr> <td>①ホームページの更新を年に100回以上行う。</td> </tr> <tr> <td>②PTA総会の日程や実施場所・方法を工夫する。また配布物による案内だけでなく、classiやホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。</td> </tr> <tr> <td>②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。</td> </tr> <tr> <td>③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。</td> </tr> <tr> <td>③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上	②PTA総会、また各種研修会への実施に向けてコロナ対策を配慮した上で、参加率を増やす。	③市高祭の入場者数1200人以上を目指す。 ※今年度は、非公開及び人数制限の場合はこの限りではない。	③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数42以上を目指す。	③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。	④オープンスクールの参加者数300人以上を目指す。	活動計画	①ホームページの更新を年に100回以上行う。	②PTA総会の日程や実施場所・方法を工夫する。また配布物による案内だけでなく、classiやホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。	②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。	③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。	③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①アクセス数240,161件(4/1~3/31) 168%増 昨年度142,565件</td> </tr> <tr> <td>②PTA総会の参加率 29.5% 3年前は27.7% ※昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止。 3年対象進路説明会 72.2% 一昨年度58.7%</td> </tr> <tr> <td>③コロナ感染症感染防止のため、非公開で実施されたため評価出来ず。</td> </tr> <tr> <td>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数43団体</td> </tr> <tr> <td>③学校説明会参加者930名(2日間合計)</td> </tr> <tr> <td>④オープンスクール参加者309名</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>①225件(4/1~3/31) 達成率 225%</td> </tr> <tr> <td>②今年度はコロナ対策を徹底した上でPTA総会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、目標以上の方が参加してくれた。</td> </tr> <tr> <td>②PTA家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より、内容については参加者全員の方が大変よかった又はよかったと回答しており好評だった。また、市高祭の「職員・保護者展」で作品を展示し、多くの生徒たちや来校された方々に観ていただくことができた。</td> </tr> <tr> <td>③今年度はコロナ感染症感染防止のため、準備等は教員のみで行ったが、作品展には保護者にも出品していただき、内容の充実に努めることができた。</td> </tr> <tr> <td>③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は10中学校で説明できた。また、学校説明用のDVDを作成して6中学校で利用があった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標の達成度	①アクセス数240,161件(4/1~3/31) 168%増 昨年度142,565件	②PTA総会の参加率 29.5% 3年前は27.7% ※昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止。 3年対象進路説明会 72.2% 一昨年度58.7%	③コロナ感染症感染防止のため、非公開で実施されたため評価出来ず。	③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数43団体	③学校説明会参加者930名(2日間合計)	④オープンスクール参加者309名	活動計画の実施状況	①225件(4/1~3/31) 達成率 225%	②今年度はコロナ対策を徹底した上でPTA総会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、目標以上の方が参加してくれた。	②PTA家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より、内容については参加者全員の方が大変よかった又はよかったと回答しており好評だった。また、市高祭の「職員・保護者展」で作品を展示し、多くの生徒たちや来校された方々に観ていただくことができた。	③今年度はコロナ感染症感染防止のため、準備等は教員のみで行ったが、作品展には保護者にも出品していただき、内容の充実に努めることができた。	③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は10中学校で説明できた。また、学校説明用のDVDを作成して6中学校で利用があった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(評定) A</td> </tr> <tr> <td>(所見) ①学校施設、学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保護者や中学生等にたいして積極的な情報提供に努めた。</td> </tr> <tr> <td>②今年度はコロナコロナ対策を徹底した上でPTA総会と進路講演会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、参加率も目標に達することができた。今後もさらに実施形態や内容の検討を進め、よりよいものになるようにしていきたい。</td> </tr> <tr> <td>③学校説明会は密を避けるため体育館を使用し、7月2日(土)に実施した。参加者が418名であった。本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。</td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	(評定) A	(所見) ①学校施設、学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保護者や中学生等にたいして積極的な情報提供に努めた。	②今年度はコロナコロナ対策を徹底した上でPTA総会と進路講演会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、参加率も目標に達することができた。今後もさらに実施形態や内容の検討を進め、よりよいものになるようにしていきたい。	③学校説明会は密を避けるため体育館を使用し、7月2日(土)に実施した。参加者が418名であった。本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。	<p>コロナの関係で、多くの行事が中止になったり、規模を縮小せざるを得なくなってしまったのは残念であるが、市高祭やPTA家庭教育部文化教養講座などが何とか実施できたことは素晴らしい。</p> <p>PTAとの関係は今後も大切にし、できる範囲で顔を合わせ、交流を深めていく必要があると思う。</p> <p>学校の情報発信については、最近ではパソコンではなく、スマートフォンで手軽に情報をチェックすることができるので、今後はホームページだけにとどまらず、様々な情報通信技術を活用して、更なる広報に努めて欲しい。</p> <p>生徒や保護者のニーズが多様化しているが、今後とも丁寧な対応をお願いしたい。</p> <p>充実した学校施設についての広報も大切である。</p>	<p>①ホームページへのアクセス数は大幅に増加し、中学生、地域の関心の高さが伺えた。</p> <p>②今年度は実施できたPTA総会であるが、毎年出席者数が3割に満たないのが現状である。案内や内容、運営方法について検討しもっと参加者を増やせるよう考えたい。家庭教育部文化教養講座は、参加者が満足できるような内容を今後も継続すると共に、参加者の幅を広げていく工夫を検討していきたい。</p> <p>③学校説明会や中学校での高校説明会などの開催できる機会を通じて、できるかぎり、中学生へ本校の魅力を情報発信していきたい。また、3Dバーチャル体験入学のコンテンツや、学校説明用のDVDを作成して中学校に広報して授業等で利用してもらうなどした。</p>
評価指標																																					
①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上																																					
②PTA総会、また各種研修会への実施に向けてコロナ対策を配慮した上で、参加率を増やす。																																					
③市高祭の入場者数1200人以上を目指す。 ※今年度は、非公開及び人数制限の場合はこの限りではない。																																					
③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数42以上を目指す。																																					
③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。																																					
④オープンスクールの参加者数300人以上を目指す。																																					
活動計画																																					
①ホームページの更新を年に100回以上行う。																																					
②PTA総会の日程や実施場所・方法を工夫する。また配布物による案内だけでなく、classiやホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。																																					
②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。																																					
③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。																																					
③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。																																					
評価指標の達成度																																					
①アクセス数240,161件(4/1~3/31) 168%増 昨年度142,565件																																					
②PTA総会の参加率 29.5% 3年前は27.7% ※昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止。 3年対象進路説明会 72.2% 一昨年度58.7%																																					
③コロナ感染症感染防止のため、非公開で実施されたため評価出来ず。																																					
③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数43団体																																					
③学校説明会参加者930名(2日間合計)																																					
④オープンスクール参加者309名																																					
活動計画の実施状況																																					
①225件(4/1~3/31) 達成率 225%																																					
②今年度はコロナ対策を徹底した上でPTA総会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、目標以上の方が参加してくれた。																																					
②PTA家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より、内容については参加者全員の方が大変よかった又はよかったと回答しており好評だった。また、市高祭の「職員・保護者展」で作品を展示し、多くの生徒たちや来校された方々に観ていただくことができた。																																					
③今年度はコロナ感染症感染防止のため、準備等は教員のみで行ったが、作品展には保護者にも出品していただき、内容の充実に努めることができた。																																					
③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は10中学校で説明できた。また、学校説明用のDVDを作成して6中学校で利用があった。																																					
総合評価																																					
(評定) A																																					
(所見) ①学校施設、学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保護者や中学生等にたいして積極的な情報提供に努めた。																																					
②今年度はコロナコロナ対策を徹底した上でPTA総会と進路講演会を実施することができた。3年ぶりの開催となり、参加率も目標に達することができた。今後もさらに実施形態や内容の検討を進め、よりよいものになるようにしていきたい。																																					
③学校説明会は密を避けるため体育館を使用し、7月2日(土)に実施した。参加者が418名であった。本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。																																					
<p>10</p> <p>情報教育の推進</p>	<p>①情報教育を拡充する。</p> <p>②ICT環境の改善を進める。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。</td> </tr> <tr> <td>②生徒一人1台のタブレット端末のトラブルに迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。</td> </tr> <tr> <td>③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> </tr> <tr> <td>①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。	②生徒一人1台のタブレット端末のトラブルに迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。	③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。	活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を3回実施した。</td> </tr> <tr> <td>②トラブル事案を整理し、対応策を譲歩かないで共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。</td> </tr> <tr> <td>③研修会を通して、積極的にITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等とおして、情報モラルの向上に取り組んだ。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を3回実施した。	②トラブル事案を整理し、対応策を譲歩かないで共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。	③研修会を通して、積極的にITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。	活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等とおして、情報モラルの向上に取り組んだ。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(評定) A</td> </tr> <tr> <td>(所見) ①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。</td> </tr> <tr> <td>②昨年度、問題点は改善できた。</td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	(評定) A	(所見) ①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。	②昨年度、問題点は改善できた。	<p>タブレットのスペックが高くなく、高校生の中には不満足な中での使用になっているかもしれないが、授業等を通じてタブレットの使用を継続してほしい。</p> <p>タブレットを使った教育活動において、その効果の検証が必要である。</p> <p>タブレット授業が当たり前前の状況になっているのは、先生方の努力のたまものである。生徒の授業に対する意識の向上を目指して、使う側の能力を高めほしい。</p>	<p>①タブレット端末や通信環境の不具合に教員と生徒が柔軟に対応できるようになった。</p> <p>②機器のトラブルに関して、タブレットの性能の問題と同時に、取り扱いにも問題が見られた。来年度は注意喚起を定期的に行っていくたい。</p>															
評価指標																																					
①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。																																					
②生徒一人1台のタブレット端末のトラブルに迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。																																					
③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。																																					
活動計画																																					
①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。																																					
評価指標の達成度																																					
①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を3回実施した。																																					
②トラブル事案を整理し、対応策を譲歩かないで共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。																																					
③研修会を通して、積極的にITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。																																					
活動計画の実施状況																																					
①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等とおして、情報モラルの向上に取り組んだ。																																					
総合評価																																					
(評定) A																																					
(所見) ①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。																																					
②昨年度、問題点は改善できた。																																					